

言葉と写真でつむぐ フォスター
「障害n社会的養護」

障害



社会的養護

2018年9月22日(土)

東京大学駒場1キャンパス 18号館1階ホール

写真展示:18号館4階オープンスペース

[シンポジウム] 13時00分～16時30分

[写真展] 11時00分～12時50分、閉会から17時00分

参加費:無料

参加方法:下記のリンクのフォームにご記入の上、ご登録ください。

参加申込: <https://goo.gl/forms/LluBzMAiEMHGzMsg2>



共催:東京大学大学院総合文化研究科附属 共生のための国際哲学研究センター(UTCP)
上廣共生哲学寄付研究部門「障害と共生」プロジェクト
:フォスター(江連麻紀・白井千晶・齋藤麻紀子)

University
of Tokyo
UCT
for Center
Philosophy

13:00 開会の言葉（石原孝二／東京大学）

<託される>

白井千晶（静岡大学）：写真展フォスターと「障害の社会的養護」について

江連麻紀さん（写真家）：フォスター写真紹介

稲垣りつ子さん（稲垣ファミリーホーム）

齋藤ファミリー（デュシェンヌ型筋ジストロフィーのある発達ゆっくりのお子さん）

熊谷晋一郎さん（小児科医、当事者研究）
：親・子の発達障害・精神障害・知的障害・身体障害について

向谷地悦子さん（浦河べてるの家）・川村和子さん（浦河町の里親）
ファシリテーター・向谷地生良さん（浦河べてるの家・北海道医療大学）

<託す>

齊藤益子さん（お子さんを施設と里親に預けた経験あり）

川村和子さん（里親）・石川貴洋さん（浦河べてるの家・お子さんを施設と里親に預けた経験あり）
ファシリテーター・向谷地悦子さん

<子育てを語る>

稲垣りつ子さん・齋藤ファミリー・向谷地悦子さん・川村和子さん・齊藤益子さん

16:30 閉会

親に精神障がい・精神疾患や発達障がい、知的障がいがあって、子どもを里親や施設などに社会的養護として預けたり、養子に託したり。

社会的養護などで預かる・養子縁組で託される子どもに、疾患や障がいがあったり。

親や子に障がいがあるとき、子育てや子育てはどうやったら幸せにできるでしょうか。

精神保健と子育てで支援や児童福祉はとても重なっているのに、あまり取り上げられてこなかったのではないかと思います。

フォスターという言葉には、血縁や法的親子関係でなく育てる、養育するという意味があります。

「言葉と写真でつむぐ フォスター」のプロジェクトでは、いろいろな親子のありようを写してきました。

預ける人や、託される里親や養親だけでなく、

預けたことがあるけれど、今は生みの親が育てていることもあれば、生みの親として子どもを見守りつながっている人もいて、形はひとつではありません。

里親だけど、自分の子がほかの人のお世話になったり、養子を託される養親に障がいがあることもあって、障がいも子育ても、固定のフレームでは捉えられない、多様な暮らしがそこにあります。

今回、「障がいの社会的養護」と題して、障がいと社会的養護の重なりをフォーカスします。

会場でフォスター写真展を開催し、写真に写った里親・実親・養親さん自らが語ります。

浦河べてるの家の方々も、預ける側・預かる側のフォスターとして参加しています。

フォスターと浦河べてるの家のコラボで、まぜこぜ、助け合い、共同の子育てや暮らしを考えましょう。